



 大阪医科薬科大学

【看護学研究科 HP】 https://www.ompu.ac.jp/education/g_nursing/index.html

Osaka Medical and Pharmaceutical University

Graduate School of Nursing

大阪医科薬科大学大学院
看護学研究科

博士前期課程（修士）

博士後期課程（博士）

研究科長メッセージ

大阪医科薬科大学大学院看護学研究科は、2014年4月に博士前期課程と後期課程を同時開設し、2024年で10周年を迎えました。この10年間、本看護学研究科は質の高い特色ある大学院教育をめざして、多くの教育研究者や高度実践者を輩出してきました。そして、大学院生の皆様が学びを深めたい専門分野で学修できるように、博士前期課程では教育研究者を育成する教育研究コース14分野、高度実践者を養成する高度実践コース6分野、また、博士後期課程では13分野とそれぞれの専門分野を拡充してきました。そのため、充実したカリキュラムと研究指導体制、教育力や研究力、実践力を高めるためにふさわしい学習環境や実習施設を整え、大学院生が興味・関心のある専門分野で学修できる学びやすい大学院となっています。

博士前期課程では、看護基礎教育や臨床で培った知識や技術をさらに高度な専門知識やスキルへと発展できるように学修します。特に看護現象を捉える力や現象を解釈・分析する力、理論やエビデンスを活用する力を養います。さらに、博士後期課程では、看護実践や教育に還元できる研究、学問の発展に寄与する研究をめざし、多彩な研究手法を駆使して知を探索・深化・創造できるように学修します。そして、大学院修了後は自立して研究活動に取り組める研究力や、看護界を牽引・変革できる力も身につけます。

教育研究者として、看護実践者としてキャリアアップを図りたい方、また、看護学の深奥を窮めたい方、是非、本看護学研究科で挑戦してみませんか。



看護学研究科長
鈴木 久美



医学・薬学領域との コラボレーション

医学部・医学研究科、薬学部・薬学研究科と連携した「医薬看融合」の教育・研究と、北摂エリア基幹病院として機能する大学病院での実習。医療系大学ならではの専門的な学びが可能です。

教育者・研究者と高度実践看護師の育成。多様な人が共に学び合う大学院です。

充実した 研究指導体制

主担当教員だけでなく、1人の学生を複数の教員が指導する体制を取っています。教員との安定した関係性を築き、異なる専門性に触れる機会もあります。

豊かな学識と国際感覚をもち、

看護学の深奥を窮めることができる

自立した教育研究者及び高度実践看護専門職を育成します



博士後期課程（博士）

実践支援看護学	看護教育学	看護技術開発看護学	人文社会学			
療養生活支援看護学	移植・再生	がん	慢性	精神	老年	臨床医学
地域家族支援看護学	母性	小児	地域	在宅	社会医学	

実践支援看護学
実践支援看護学では、看護学各領域における実践の基盤となる看護専門職者の発達課題に応じた支援方法の探究や、看護技術のエビデンスの開発に関する課題を理論的、実践的に探究します。

療養生活支援看護学
病院および外来の医療を中心として、療養生活を営む個人とその家族の健康問題・課題の探求と援助方法について理論的、実践的に探究します。

地域家族支援看護学
病院および外来から在宅、地域へと移行して生活する人々や組織活動等集団を対象として、特にヘルスプロモーションの視点から課題の探求と支援方法について理論的、実践的に探究します。

博士前期課程（修士）

実践支援看護学	看護教育学	看護技術開発	人文社会学			
療養生活支援看護学	移植再生	がん	慢性	精神	老年	臨床医学
地域家族支援看護学	母性	小児	地域	在宅	社会医学	
療養生活支援看護学	がん	慢性	精神	老年		
地域家族支援看護学	小児			プライマリケア看護学 (ナースプラクティショナー)		

教育研究コースでは、教育者に求められる実践的教育能力を有する人材を養成します。

実践支援看護学
実践支援看護学では、看護学各領域における実践の基盤となる看護専門職者の発達や育成、看護の教育的機能の開発、さらに看護技術のエビデンスの開発に関する課題について探究します。

療養生活支援看護学
病院および外来の医療を中心として、療養生活を営む個人とその家族の健康問題・課題と援助方法について探究します。

地域家族支援看護学
病院および外来から在宅、地域へと移行して生活する人々や組織活動等集団を対象として、特にヘルスプロモーションの視点から課題と支援方法について探究します。

高度実践コースでは、専門看護師(CNS)・ナースプラクティショナー(NP)に求められる「卓越した実践能力」「教育能力」「コンサルテーション能力」「コーディネーション能力」「研究能力」「高邁な倫理観」の6つの能力を有する人材を養成します。

ライフワークにつながる 研究に出会えた

博士後期課程
療養生活支援看護学領域 がん看護学分野

橋本 理恵子

私は、がん看護専門看護師、看護教員として実践、教育活動を積み重ねてきました。対象者（がん患者やご家族）をより深く理解するためには、研究を蓄積していく必要があると考え博士後期課程に進学をいたしました。博士後期課程では、指導教授の手厚い導きがあり知的好奇心を持ちながらがん看護の研究に取り組むことができ、ライフワークにつながる研究に出会うことができました。これまでの学びを糧に今後の、がん看護専門看護師、教員として歩んで参りたいと思います。

私は、がん看護専門看護師、看護教員として実践、教育活動を積み重ねてきました。対象者（がん患者やご家族）をより深く理解するためには、研究を蓄積し

私は、確かな研究能力と研究成果を還元する研究者としての資質を養い、また看護学教員としての教育力を高めたいと考え進学しました。多様な専門分野の先生方からの講義や研究指導は興味深く、また大学院生仲間とのディスカッションはとても楽しく貴重な時間であり、知見を深めるだけでなく、大切なご縁も頂きました。さらに、研究費を支援していただくなど充実した支援体制があり、学びをサポートしてくださった職員の方にも感謝しております。

興味深い講義や研究指導と 仲間との貴重な時間

博士後期課程
地域家族支援看護学領域 小児看護学分野

枝川 千鶴子

看護教育の重要性を感じ、 看護教員を志望

博士前期課程 教育研究コース
療養生活支援看護学領域 慢性看護学分野

西ヶ峰 晴奈

臨床看護師及び学生実習補助員として働くうちに看護教育の重要性を感じ、看護教員を志望して進学しました。講義では同級生とのディスカッションの機会が多く設けられており、様々な経験を持つ同級生を通して臨床看護での疑問や課題に触れ、自身の専門領域以外の知見を深めることが出来ました。また、研究過程において、様々な専門領域の先生方からアドバイスを頂くことで、研究者として多角的な視点を持つことの重要性を学ぶことが出来ました。この度得た学びを学生教育の場で活かしたいと考えています。

臨床看護師及び学生実習補助員として働くうちに看護教育の重要性を感じ、看護教員を志望して進学しました。講義では同級生とのディスカッションの機会

修了生からの メッセージ

介護施設における課題解決 の基盤となる多くの学び

博士前期課程 高度実践コース
療養生活支援看護学領域 老年看護学分野

北野 美佐子

しさや物事を俯瞰的に捉える必要性を学びました。また、他領域の院生とのグループワークも多く、大切な仲間との出会い、自身の看護観を見つめ直す機会を得ました。研究では、長年の臨床課題に対し、実践の根拠を導き出す手法を修得できました。今後はこの学びを基盤とし、介護施設における課題解決に取り組んでいきたいと考えています。

私は、介護施設における認知症看護や多職種連携への課題を解決したいと思い進学しました。講義では、課題発表やディスカッションにより、言語化する難

私は、コロナ禍における訪問看護の臨床で、日常的に医療管理が必要な在宅療養者や高齢者に対して、確実なフィジカルアセスメントと臨床判断に基づく日常

取り組みの姿勢や俯瞰的思考、 倫理観などを習得

博士前期課程 高度実践コース
地域家族支援看護学領域 プライマリケア看護学分野

平田 由紀

的な健康支援を行う必要性を感じ、進学しました。大学院でのレポート作成や実習、研究の過程は簡単ではありませんでしたが、2年間の学びを振り返ると、根拠を意識して取り組むことや俯瞰的思考、倫理観などが身についたと実感しています。今後も、大学院での学びを看護実践で活かすために日々努力していきたいと考えています。

研究に必要な経費を支援

個人研究費支給額

博士前期課程（修士） 145,000円/年

博士後期課程（博士） 290,000円/年

交通費や資料代、謝礼金などの研究費を支給する仕組みが整っているため、経済的な負担を気にせず研究に打ち込むことができます。

教育訓練給付制度

博士前期課程（教育研究コース、高度実践コース）は「一般教育訓練給付制度厚生労働省指定講座」です。

教育訓練給付制度とは

働く方の主体的な能力開発の取組み又は中長期的なキャリア形成を支援するため、教育訓練受講に支払った費用の一部を支給するとともに、雇用の安定と再就職の促進を図ることを目的とする雇用保険の給付制度です。

一定の条件を満たす雇用保険の一般保険者（在職者）または一般被保険者であった方（離職者）が、厚生労働大臣の指定する教育訓練を受講し終了した場合、教育訓練施設に支払った教育訓練経費の20%に相当する額（上限10万円）がハローワークから支給されます。

■対象となる方

看護学研究科博士前期課程に2020年度以降入学し、かつ給付を受けるために必要な一定の雇用保険の被保険者期間を有していること。

※長期履修制度、博士後期課程の方は適用されませんのでご注意ください。

■支給見込み金額

教育訓練経費の20%に相当する金額（10万円上限）。

※ただし、大学院生研究費で支給した金額および入学金免除対象者の免除額は教育訓練経費から除きます。

■申請方法・問い合わせ

支給対象の要件、申請方法等につきましては、お住いの住居所を管轄するハローワークにお問い合わせください。



交流会

大学院生と教員の交流会を開催しています。講義以外で気軽に教員と話すことができるとともに、学年の違う院生同士の交流の場ともなっています。



補習授業

博士前期課程では入学前に入学予定者を対象とする補習授業を行っています。入学後の生活をイメージして頂くとともに、看護研究理解の導入をねらいとして行っています。



博士前期課程（修士）

アドミッションポリシー（入学者受入の方針）

本学の理念を理解し、課題に対する柔軟な思考力と深い洞察力、及び倫理的判断力を自らが培う意欲をもち、多様な場でリーダーシップを発揮し、グローバルな視点及び知的学識をもって教育研究及び看護実践の向上を担うことへの高い志をもった人を求める。

- ① 入学後の修学の基盤となる専門知識、技術をもつ。
- ② 多様な場でリーダーシップをとり看護の発展に貢献したいという意欲をもつ。
- ③ 課題を探究し、解決できる専門職、教育者、研究者を志している。
- ④ 看護の分野で国際的な貢献をしたいという意欲をもつ。

入学者選抜の基本方針

入学者選抜は、外国語（英語）試験、専門科目試験、面接試験の結果及び提出書類内容を総合的に判断し、合格者を決定する。

ディプロマポリシー（学位授与の方針）

大阪医科薬科大学大学院看護学研究科博士前期課程では、大学院学則に定める期間看護学研究科に在学し、所定の単位を修得し、教育要項に定める学位授与のために修得すべき内容を修得し、学位論文の審査を経た者に学位「修士（看護学）」を授与する。

学位授与基準

2年以上在学して所定の単位を修得するとともに必要な研究指導を受け、下記の能力を修得して学位論文を提出し、学位論文の審査を経て、最終試験に合格した者には、「修士（看護学）」の学位を授与する。

コース共通

- ① 豊かな人間性と高い倫理観を基盤に教育研究・看護実践の場で倫理的に行動できる。
- ② 教育研究者や看護職者の教育指導ができる高度な知識・技術を有し、論理的・批判的に思考できる。
- ③ グローバルな視点と多様な文化に対する見識をもち、看護学の発展に積極的に貢献できる。

教育研究コース

- ① 専攻分野に関する広く深い知識をもち、教育・研究指導力を身につけている。
- ② 看護現象を論理的かつ科学的に探究するための研究遂行能力を身につけている。
- ③ 看護学教育及び看護実践の質改善に貢献できる。

高度実践コース

- ① 専攻分野において優れた臨床判断能力と看護実践能力を身につけている。
- ② 多職種・組織と連携・協働し、より良いケアを行うために必要な高いコミュニケーション能力と調整能力、指導力を身につけている。
- ③ 看護実践上の課題を明確にし、研究的かつ組織的に課題解決ができる基礎的能力を身につけている。



より質の高い看護を創出する基礎力を身につけましょう！

教授 草野 恵美子



看護の現場や看護学を学ぶ中で抱いた疑問や解決したい課題にぶつかることがあると思います。博士前期課程では、このような疑問や課題を解決するための基礎的能力を身につけ、さらに社会に貢献できる人材となることを目指します。

本学の博士前期課程には、教育研究コースと高度実践コースがあります。教育研究コースでは、教育・研究指導力や研究遂行能力を身につけ、看護学教育及び看護実践の質改善に貢献できる人材となることを目指します。これまでの学びや経験をもと

に、深く探究したいテーマについて科学的手法を学びながら探究します。高度実践コースでは、優れた臨床判断能力・看護実践能力や高いコミュニケーション能力、調整能力等を身につけて、専門看護師(CNS)またはナースプラクティショナー(NP)の受験資格を目指します。どちらのコースも最終的に修士論文を作成します。

大学院での学び方では、単なる知識吸収にとどまらず、主体的に自身の専門分野を探究し、自律的に学ぶことが求められます。そのための環境として、主指導教員からの指導だけでなく副指導教員2名も含めたグループ指導体制や、社会人として働きながら就労する院生等が活用できる長期履修制度等を用意しています。また院生には個人研究費が支給され、研究活動をよりスムーズに進めるための支援があります。他にも医学研究科の講義聴講や図書館など、大学の様々な資源を活用できる環境も整えています。

大学院でともに苦難を乗り越えて目標に向かう仲間もその後の人生にとって財産になると思います。大阪医科薬科大学大学院で、より質の高い看護を創出する基礎力を身につけるために一緒に学びませんか？

コース	領域	専門分野	研究指導教員	概要
教育研究コース	実践支援看護学	看護教育学	池西 悦子 川北 敬美	教育・実践領域において系統的な教育活動を展開するために必要な基礎的知識・技術について学びを深めます。そして、これまでの教育実践に関わる経験や文献検討を通して看護学教育に共通して存在する諸現象に関する課題、および看護学生を含む看護専門職者のキャリア開発に関する課題を探究します。
		看護技術開発看護学	二宮 早苗	今ある看護技術のエビデンスの構築や、看護技術の発展のための新たな方法や看護用具の開発などを目標としています。そのために、現状の問題やその背景を理解するための調査や、人々の健康と生活の質向上に向けて看護技術を発展させていくための評価・実験など、さまざまな方法を用いて課題を探究します。
		人文社会学	小林 道太郎	人文社会学の諸分野はさまざまな仕方でも看護学と関連していますが、特に教員の専門は哲学・倫理学です。現象学的方法を含む質的方法による看護研究、看護倫理・医療倫理の諸問題に関する研究など、文献の精読とその批判的検討によって培われる人文社会学的な思考法や知識をベースとして、看護およびその関連領域の研究を行います。
	療養生活支援看護学	移植・再生医療看護学	寺口 佐與子 谷水 名美	日本で唯一の移植看護と再生医療看護を標榜し、末期ステージにある患者の残された治療法としての移植医療そして再生医療に伴う倫理的課題、慢性移植病ともいえる自己管理問題、さらには生存率の向上による高齢化の問題など様々な課題・問題について研究に取り組んでいます。また、リンパ浮腫を持つ患者の QOL を向上させるための取り組みも行っています。当領域はこのように臨床に還元できる看護研究を行っています。
		がん看護学	鈴木 久美 南口 陽子	がん医療の動向やがん看護および緩和ケアに必要な概念・理論、がんの診断期、治療期、進行・再発期、終末期の各期における効果的な援助方法についての学びを深めます。また、自らの臨床経験や国内外の文献レビューを踏まえて、がん看護や緩和ケアの領域において取り組むべき研究課題を見出し、さまざまな研究方法を用いて看護現象の構造や看護介入法に関する課題を探究します。
		慢性看護学	飛田 伊都子	健康の増進、慢性病の予防から、慢性病の個人および家族の健康や生活に及ぼす影響・特徴と、それに対する人々の反応・療養行動特性を理解し、慢性病をもちながら質の高い生活を送るとはどのようなことなのか。超高齢化とともにますます慢性疾患をもつ人々の健康問題は複雑化しております。現状や近い将来も見据えて慢性疾患をもつ人々とその家族、さらに社会にも貢献できる研究課題に取り組んでいきたいと思えます。
		精神看護学	山岡 由実	国内外の精神保健医療福祉の新しい動向に常に留意しつつ課題を明確にし、対象となる人の統合的な理解に基づいた看護援助の方法、支援のあり方を検討します。全人的な視点を基盤として看護実践を深め、精神看護の発展に寄与し得る研究力・教育力の育成を目指します。
	地域家族支援看護学	老年看護学	樋上 容子	老年期を生きる人の価値観や信念を尊重した看護を実現するために、エビデンスに基づいた高齢者ケアのための理論的基盤を養います。また、喫緊の課題である超高齢社会に適合した制度やシステム、終末期の高齢者意思決定支援などについて、ディスカッションや発表を中心とした講義を行い、その課題と対策を探究します。さらに最重要課題である認知症看護について最新のエビデンスを学び、認知症高齢者とその家族への理解を深めます。
		臨床医学	安田 稔人 津田 泰宏	質の高い看護を提供するにはそれぞれの疾患の病態や症状の原因、そして治療薬の使われ方や手術方法と後療法などを理解しておくことが必須です。医系の教員の視点から様々な内科系および外科系疾患の病態生理やマネージメントを学び、診断から治療に至る流れの理解を深めます。その中で看護の視点から現状の問題点や改善点を見つけ出し、それらを研究課題として取り組むことでさらに医療の質を向上させることを目指しています。
		小児看護学	鈴木 美佐	子どもとその家族を対象に、育ちを支援する視点で課題を探究していきます。これまでの学習や臨床経験をもとに、健康障害と療養、生活、教育など子どもを取り巻くさまざまな状況から看護現象を捉え、重要な概念を焦点化していきます。同時に研究課題に関連する理論を学び看護支援に関する基本的理解とエビデンスについて学びます。また国内外の文献検討をふまえ、さまざまな研究方法を用いて修士論文をまとめます。
高度実践コース	地域家族支援看護学	地域看護学	草野 恵美子	地域で生活している人々や労働者集団等を対象として、ヘルスプロモーションの視点から健康課題と支援方法を探究しています。多職種との連携協働や地域包括ケアシステムの活用と開発等の多様な手法を学び、あらゆる健康レベルにおける予防的視点を重視した能力と地域の住民の健康や QOL の向上を目指した研究能力を培います。
		在宅看護学	真継 和子 伊藤 真理 大橋 尚弘	国内外における在宅看護の現状を知り、多様な健康状態にある在宅療養者とその家族を理解し支援するための理論とその応用について学びます。在宅看護に関連する文献検討や討議をおとて臨床での疑問や研究課題を明確化し、人びとが望む地域での生活を支えるための看護の探究、在宅ケアシステムの構築等、在宅看護の発展に寄与する知見を探究します。一連の研究プロセスをおとて、基礎的な研究能力の修得を目指します。
	社会医学	土手 友太郎	看護職の観点から労働者の健康管理と快適で安全な職場環境の構築に貢献できる研究を行います。具体的には生活習慣病、メンタルヘルス、過重労働、労働災害等の現況においてニーズの高い研究課題に焦点をあて、検討できる研究能力を養成することを目指します。	
	療養生活支援看護学	がん看護学	鈴木 久美 南口 陽子	がん医療の中でも特に発症がめざましいがん薬物療法や放射線療法を受けるがん患者および家族に卓越したケアを提供できるがん看護専門看護師の育成を目指しています。がん医療の動向や最新のがんの診断・集学的治療の知識、がん看護や緩和ケアに必要な概念および理論に関する専門知識、根拠に基づく臨床判断過程や熟練した看護ケア技術についての学びを深め、高度な看護実践能力を身につけます。
慢性看護学		飛田 伊都子	慢性病の予防から、慢性病の個人および家族の健康や生活に及ぼす影響・特徴と、それに対する人々の反応・療養行動特性を理解し、慢性病をもちながら質の高い生活をするという視点から、慢性看護専門看護師の専門性を発揮して、施設全体や地域の看護の質の向上を高めることができる人材の育成を目指しています。最終的には、自分なりの「高度実践専門看護師」のイメージを具体的に描けることを期待しています。	
精神看護学		山岡 由実	精神保健医療福祉の動向を踏まえ、精神情緒状態の評価と精神科治療・療法と共に、精神看護に関する諸理論、精神看護アセスメント、精神看護技法等を学び、高度実践看護師の役割機能に関する理解を深めて必要な能力を育みます。サブスペシャリティには、精神疾患のある人の地域移行・地域包括ケアを推進する「地域精神看護」、一般病院・総合病院で身体疾患のある患者・家族への精神看護ケアを行う「リエゾン精神看護」の2つのコースがあり、さらなる専門的な知識・技術を獲得し、学びを深めます。	
老年看護学		樋上 容子	高齢者の療養生活を支援するための専門的知識に基づいた高度な看護判断ができる能力を身につけ、高齢者および家族に卓越したケアを提供できる老人看護専門看護師の育成を目指しています。特に認知症老年看護、在宅における老年看護について治療法や看護技術、在宅ケアシステム等の最新のエビデンスを学び、複雑な課題を抱える認知症高齢者、あるいは在宅で療養生活を送る高齢者を支援するための高度な看護実践について学びを深めます。	
小児看護学		鈴木 美佐	健康障害のある子どもに対し、卓越した看護を提供できる小児看護専門看護師の育成を目指します。さまざまな疾患についての病態の把握、小児医療の場から診断、治療の最新知識を学び、看護アセスメント能力の向上を図ります。また、小児科医、小児看護専門看護師の指導による実習を通じ、高度な看護実践能力を身につけます。課題研究では、臨床での疑問から看護実践の場を生かせる研究に取り組めます。	
地域家族支援看護学	プライマリケア看護学 (ナースプラクティショナー)	真継 和子 寺口 佐與子 伊藤 真理 大橋 尚弘	顕在または潜在的に健康問題を有する患者にケアとキューを統合し、自律的に治療的もしくは予防的介入を行い、疾病予防から疾病管理、健康の維持・増進からエンド・オブ・ライフケアまで直接的ケアができるプライマリケア看護のナースプラクティショナーの育成を目指しています。典型的な疾患や症状の病態、診断、治療、プライマリケア看護に必要な概念や理論についての専門的知識や技術を学び、看護の視点から包括的アセスメントし卓越した看護実践ができる能力を身につけます。	

カリキュラム

区分	科目	単位数
共通科目	看護倫理	2
	看護学研究方法論	2
	看護現任教育論	2
	看護理論	2
	看護管理学	2
	コンサルテーション論	2
	看護政策論	1
	フィジカルアセスメント論	2
	臨床薬理学	2
	病態生理学	2
	看護哲学	2
	英語論文講読	1
	実践支援看護学領域	看護教育学特論I
看護教育学特論II		2
看護教育学演習		2
看護技術開発学特論I		2
看護技術開発学特論II		2
看護技術開発学演習I		2
看護技術開発学演習II		2
療養生活支援看護学領域	移植・再生医療看護学特論I	2
	移植・再生医療看護学特論II	2
	移植・再生医療看護学演習	2
	がん看護学特論I	2
	がん看護学特論II	2
	がん看護学援助論I	2
	がん看護学援助論II	2
	がん看護学演習I	2
	がん看護学演習II	2
	慢性看護学特論I	2
	慢性看護学特論II	2
	慢性看護学援助論I	2
	慢性看護学援助論II	2
	慢性看護学演習I	2
	慢性看護学演習II	2
	精神看護学特論I	2
	精神看護学特論II	2
	精神看護学特論III	2
	精神看護学アセスメント論	2
	精神看護学援助論I	2
精神看護学援助論II	2	
精神看護学治療論	2	
精神看護学演習	2	
老年看護学特論	2	
老年看護学アセスメント論	2	
老年病態治療論	2	
老年看護学援助論	2	
老年看護学サポートシステム論	2	
老年看護学演習I	2	
老年看護学演習II	2	

区分	科目	単位数
地域家族支援看護学領域	家族看護学特論	2
	周産期看護論	2
	母性看護学特論	2
	ウイメンズヘルス看護論	2
	周産期看護援助論I	2
	周産期看護援助論II	2
	周産期看護演習I	2
	周産期看護演習II	2
	小児看護学特論	2
	小児と病気	2
	発達障害看護論	2
	小児看護学アセスメント論	2
	小児看護学演習	2
	地域看護学特論	2
	地域ケアシステム特論	2
	地域母子保健論	2
地域看護学演習	2	
在宅看護学特論I	2	
在宅看護学特論II	2	
在宅看護学演習	2	
特別研究	特別研究	8

〈修了要件〉
2年以上在学して所定の単位(32単位以上)を修得するとともに必要な研究指導を受け、学位論文を提出し、かつ最終試験に合格すること。
〈履修方法〉
指導教員の指導のもと履修科目を選択し履修すること。必修科目をすべて履修し、専攻分野専門科目(人文社会学、臨床医学、社会医学は共通科目)から3科目6単位以上(必修科目を含む)を履修する。ただし実践支援看護学領域科目の「看護教育学特論I」を受講することを推奨する。

※2026年度は変更の可能性があります。

教育研究コース

区分	科目	単位数
共通科目	看護倫理	2
	看護学研究方法論	2
	看護現任教育論	2
	看護理論	2
	看護教育学特論I	2
	看護教育学特論II	2
	看護管理学	2
	コンサルテーション論	2
	看護政策論	1
	フィジカルアセスメント論	2
	臨床薬理学	2
	病態生理学	2
	看護哲学	2
英語論文講読	1	
療養生活支援看護学領域	がん看護学特論I	2
	がん看護学特論II	2
	がん病態治療論	2
	がん看護学援助論I	2
	がん看護学援助論II	2
	がん看護学演習I	2
	がん看護学演習II	2
	がん看護学実習I	2
	がん看護学実習II	2
	がん看護学実習III	3
	がん看護学実習IV	3
	慢性看護学特論I	2
	慢性看護学特論II	2
	慢性看護学アセスメント論	2
	慢性看護学援助論I	2
	慢性看護学援助論II	2
	慢性看護学演習I	2
	慢性看護学演習II	2
	慢性看護学実習I	2
慢性看護学実習II	4	
慢性看護学実習III	4	
精神看護学特論I	2	
精神看護学特論II	2	
精神看護学特論III	2	
精神看護学アセスメント論	2	
精神看護学援助論I	2	
精神看護学援助論II	2	
精神看護学治療論	2	
精神看護学演習	2	
精神看護学実習I	2	
精神看護学実習II	6	
精神看護学実習III	2	

区分	科目	単位数
療養生活支援看護学領域	老年看護学特論	2
	老年看護学アセスメント論	2
	老年病態治療論	2
	老年看護学援助論	2
	老年看護学サポートシステム論	2
	老年看護学演習I	2
	老年看護学演習II	2
地域家族支援看護学領域	老年看護学実習I	4
	老年看護学実習II	4
	老年看護学実習III	2
	家族看護学特論	2
	周産期看護論	2
	小児看護学特論	2
	小児と病気	2
	発達障害看護論	2
	小児看護学アセスメント論	2
	小児看護学演習	2
	小児看護学実習I	2
	小児看護学実習II	6
	小児看護学実習III	2
	地域母子保健論	2
	ヘルスプロモーション論	2
	医療の質保証と安全管理	2
	プライマリケア看護学特論I	2
	プライマリケア看護学特論II	2
	プライマリケア看護学特論III	2
プライマリケア看護学特論IV(小児)	2	
プライマリケア看護学特論V(成人)	2	
プライマリケア看護学特論VI(老年)	2	
プライマリケア看護学特論VII(メンタルヘルス)	2	
プライマリケア看護学演習I	2	
プライマリケア看護学演習II	2	
プライマリケア看護学実習I	2	
プライマリケア看護学実習II	2	
プライマリケア看護学実習III	4	
プライマリケア看護学実習IV	2	
特別研究	課題研究	4

〈修了要件〉
2年以上在学して所定の単位(CNS42単位以上、NP50単位以上)を修得するとともに必要な研究指導を受け、学位論文を提出し、かつ最終試験に合格すること。
〈履修方法〉
指導教員の指導のもと履修科目を選択し履修すること。専攻分野の必修科目をすべて履修し、かつ選択必修科目から1科目2単位以上を履修する。

※2026年度は変更の可能性があります。

高度実践コース

博士後期課程（博士）

アドミッションポリシー（入学者受入の方針）

本学の理念を理解し、深い探求心と倫理観をもった高度な研究能力を自らが培う意欲をもち、多様な場で自立して教育研究開発ができ、グローバルな視点及び知的学識をもって社会に貢献することへの高い志を持った人を求める。

入学者選抜の基本方針

入学者選抜は、外国語（英語）試験、専門科目試験、口述試験の結果及び提出書類内容を総合的に判断し、合格者を決定する。



ディプロマポリシー（学位授与の方針）

大阪医科薬科大学大学院看護学研究科博士後期課程では、大学院学則に定める期間看護学研究科に在学し、所定の単位を修得し、教育要項に定める学位授与のために修得すべき内容を修得し、学位論文の審査を経た者に学位「博士（看護学）」を授与する。

学位授与基準

3年以上在学して所定の単位を修得するとともに必要な研究指導を受け、下記の能力を修得して学位論文を提出し、学位論文の審査を経て、最終試験に合格した者には、「博士（看護学）」の学位を授与する。

- ① 体系的に活動できる教育能力と高度な研究能力をもち、教育研究の開発に貢献できる。
- ② 教育や看護実践の場において科学的根拠や研究的視点をもって提言ができる中核的指導力や統率力を身につけている。
- ③ 学際的、グローバルな視点から専門的課題を探究し、看護学の知識体系の発展に貢献できる。



博士後期課程では3つのディプロマポリシーを学位授与の基準としていますが、それらは専門的知識を習得するレベルではなく、研究を通して社会貢献に繋がるレベルに到達することを要求しています。つまり身につけた専門的知識を実践の中で活用することができ、さらにそれが現場で評価される場所まで求められることを意味しています。その基盤となるのがロジカルシンキングです。研究を実施するためには研究プロトコルを作成しますが、

そのプロトコル自体にロジックが組み込まれていなければなりません。慣れなければ難しく感じるかもしれませんが、研究を継続しているとロジックを意識できるようになります。そしてそれが身につくと研究課題を整理したうえで取り組むことができるようになり、これは研究だけでなく看護実践にも役立ちます。研究を通してロジカルシンキングを習得したい方や自身がおかれた環境を論理的に分析し対応できる力を身につけたい方は大学院で学ぶことをお勧めします。

ロジカルシンキングを意識して

教授 飛田 伊都子

領域	専門分野	研究指導教員	概要
実践 支援看護学	看護教育学	池西 悦子	看護教育学は、看護学各領域に共通して存在する要素を研究対象として、看護学生を含む看護職者、看護教育者など看護を提供する側に焦点を当て、その発達支援を通して質の高い看護の提供を目指します。当該分野では、看護基礎教育および看護継続教育の実践の場で生じている教育現象、看護専門職の実践的思考の育成など、看護実践能力を高める人材育成の課題について探求します。
	看護技術開発 看護学	二宮 早苗	今ある看護技術のエビデンスの構築や、看護技術の発展のための新たな方法や看護用具の開発などを目指しています。そのために、現状の問題やその背景を理解するための調査や、人々の健康と生活の質向上に向けて看護技術を発展させていくための評価・実験など、さまざまな方法を用いて課題を探求します。
	人文社会学	小林 道太郎	人文社会学の諸分野はさまざまな仕方看護学と関連していますが、特に教員の専門は哲学・倫理学です。現象学的方法を含む質的方法による看護研究、看護倫理・医療倫理の諸問題に関する研究など、人文社会学の視点や知見を活かした研究を行い、自律的な教育研究者として批判的に考えながら研究する力を養うことを目指します。
療養生活 支援看護学	移植・再生医療 看護学	寺口 佐與子	日本で唯一の移植看護と再生医療看護を標榜し、末期ステージにある患者の残された治療法としての移植医療そして再生医療に伴う倫理的課題、慢性移植病ともいえる自己管理問題、さらには生存率の向上による高齢化の問題など様々な課題・問題について研究に取り組んでいます。また、リンパ浮腫を持つ患者の QOL を向上させるための取り組みも行っていきます。当領域はこのように臨床に還元できる看護研究を行っています。
	がん看護学	鈴木 久美	がん看護や緩和ケアなどの分野における臨床知や国内外文献の系統的レビューを基盤として、がん看護などの教育および看護実践において取り組むべき研究課題を特定し、関心領域における概念分析、看護現象の構造の明確化や理論構築、看護ケアの評価方法の開発、看護介入モデルや看護介入プログラムの開発に関する課題を探究します。
	慢性看護学	飛田 伊都子	関心領域の国内外の文献レビューを基に病気とともに生きる人とその家族を対象に健康課題と関連要因を明らかにし、効果的な看護の方法を追及します。さらに慢性期にある人と家族を理解するための概念や理論に裏づけられた経験から、新たな発想を加えて、患者のセルフケアや QOL 向上、健康増進のための援助について探究、新たな理論や概念を創世します。
	精神看護学	山岡 由実	全人的な視点を基盤にしながら、入学生が計画した研究テーマを精錬させ、精神保健における社会的課題の解決に向け、精神看護の発展に寄与し得る研究論文が作成できるよう研究能力の開発を目指します。
	老年看護学	樋上 容子	「老年期を生きる人」の価値観や信念を尊重し、高齢者が持てる力を発揮できるように、最新のエビデンスに基づいた高度な看護ケアの追求や、その評価方法の開発に取り組んでいます。学生は老年期における健康課題の解決に向けて、課題の明確化と共に、新たな方策を開発する力、研究成果を発信する力を培い、1人の研究者として老年看護学の知識体系の発展に貢献できる能力の修得を目指します。
地域家族 支援看護学	臨床医学	安田 稔人 津田 泰宏	質の高い看護を提供するにはそれぞれの疾患の病態や症状の原因、そして治療薬の使い分けや手術方法と後療法などを理解しておくことが必須です。医系の教員の視点から様々な内科系および外科系疾患の病態生理やマネジメントを学び、診断から治療に至る流れの理解を深めます。その中で看護の視点から現状の問題点や改善点を見つけ出し、それらを研究課題として取り組むことでさらに医療の質を向上させることを目指しています。
	小児看護学	鈴木 美佐	小児看護学では、子どもの発達段階や健康障害の幅広さや子どもにかかわる家族の問題など複雑な看護現象を扱う研究に取り組んでいます。院生が取り組んできた研究や教育経験を基盤に、系統的文献レビューや討論を通して看護現象の明確化を図り、看護現象の構造の明確化や理論構築、看護ケアプログラムの開発に関する研究課題を探究します。研究を通して小児看護の知の発展に寄与することを目指しています。
	地域看護学	草野 恵美子	公衆衛生看護学・地域看護学の学問追求を基盤とし、公衆衛生看護・地域看護活動の発展に寄与するための研究を行います。具体的には、「地域組織活動の健康への効果」「母子保健活動の標準化」「保健所等と大学との官学連携」を含めた、様々な健康づくり活動・保健師活動等に関する研究を行っています。これらの研究を通して実践活動の科学的根拠創出や成果の可視化に向けた研究能力を培うことを目指します。
社会医学	在宅看護学	真継 和子 伊藤 真理	在宅看護や訪問看護という実践の場での生きたデータを大切に、現象をみつめ、理論的に分析し、言語化を試みます。そして、エビデンスにもとづいたケアの具現化、効果的な支援システムの開発など在宅看護学の発展に資する独創性のある研究課題に取り組めます。主体的に研究をすすめるなら、教育研究者として自立できる研究能力の修得を目指します。
	社会医学	土手 友太郎	国民の健康の増進の総合的な推進を図るため、公衆衛生学の視点から生活習慣病の発症予防と健康寿命の延伸に関わる研究を行います。具体的には運動習慣や食習慣等に起因するがん、循環器疾患、糖尿病等の一次予防に重点を置いた研究能力を養成することを目指します。

カリキュラム

区分	科目	単位数
基盤科目	看護科学研究論	2
	看護学研究法応用論(保健統計)	1
	看護学研究法応用論(実験法)	1
	看護学教育開発論	2
	英語論文演習	1
	異文化看護論	1

区分	科目	単位数
実践支援看護学	実践支援看護学特論	2
	実践支援看護学演習	1
療養生活支援看護学	療養生活支援看護学特論	2
	療養生活支援看護学演習	1
地域家族支援看護学	地域家族支援看護学特論	2
	地域家族支援看護学演習	1
特別研究	特別研究	8

〈修了要件〉

3年以上在学して所定の単位(14単位以上)を修得するとともに必要な研究指導を受け、学位論文を提出し、かつ最終試験に合格すること。

〈履修方法〉

指導教員の指導のもと履修科目を選択し履修すること。専攻領域の必修科目をすべて履修し、かつ選択必修科目から1科目1単位以上を履修する。

※2026年度は変更の可能性があります。

博士論文作成のながれ

1 年次	7月	● グループ指導
	10月	● 研究計画書（倫理申請）の提出のためのグループ指導（早期） ● 研究計画書の発表（早期） ● 研究計画書の提出（早期）
	11月	● 倫理審査申請書の提出（早期） ● グループ指導
	1月	● 倫理審査（早期）
	2月	● 研究計画書（倫理申請）の提出のためのグループ指導（通常） ● グループ指導 ● 研究計画書の発表（通常） ● 研究計画書の提出（通常）
2 年次	3月	● 倫理審査申請書の提出（通常）
	5月	● 倫理審査（通常）
3 年次	7月～ 2月	● グループ指導
	4月	● 中間発表
	5月～ 12月	● グループ指導
	1月～	● 博士論文の提出
	2月～	● 博士論文の審査 ● 博士論文発表会 ● 修正版博士論文の提出 ● 学位授与可否決定 ● 学位授与式

News

修了生が高度実践看護師(CNS、NP)に認定されています

認定年度	専門分野	人数
2024年度	がん	1
	老年	2
	プライマリケア (JANPU-NP)	1
2023年度	慢性	1
	小児	2
	老年	1
	プライマリケア (JANPU-NP)	1
2022年度	がん	1
	老年	1
2021年度	がん	1
2020年度	慢性	1
	小児	2※
2019年度	慢性	1
2017年度	小児	1
	精神	1
	慢性	1
合計		19

※科目等履修生として本学で高度実践コース科目を取得した1名を含む

2024年度で大阪医科薬科大学大学院看護学研究科は10周年を迎えました

大阪医科薬科大学大学院看護学研究科は、2014年4月に博士前期課程と後期課程を同時開設し、2024年度で10周年を迎えました。この10年間、本看護学研究科は、質の高い特色ある大学院教育により、多くの教育研究者や高度実践者を輩出してきました。新たなニーズにこたえつつ、今後もさらに充実した大学院教育を行ってまいります。

大学院 FD

大学院教育や研究の質向上のためのFD (Faculty Development)を行っています。



国際交流

国際学会での発表や海外で活躍する看護職によるオンライン講演会など、様々な形での国際交流を目指しています。



修了者数

年度	博士前期（修士）		博士後期（博士）	計
	教育研究コース	高度実践コース		
2020年度	6	1	5	12
2021年度	9	2	8	19
2022年度	3	5	4	12
2023年度	3	4	2	9
2024年度	3	2	6	11

※看護学研究科は2014年4月開設

学費等

□博士前期課程（修士）

	初年度学費（入学金含む）		2年次以降学費（年額）
	前期（入学手続時）	後期（納入期限：9/30）	
入学金	200,000円	-	-
授業料	240,000円	240,000円	480,000円
教育充実費	50,000円	50,000円	100,000円
合計	490,000円	290,000円	580,000円

※本学学部卒業者は、入学金半額免除。

（出願時に入学金免除申請用紙を同封すること）

※個人研究費145,000円/年が支給されます。

※高度実践コースは、実習費150,000円/年を別途徴収します。

□博士後期課程（博士）

	初年度学費（入学金含む）		2年次以降学費（年額）
	前期（入学手続時）	後期（納入期限：9/30）	
入学金	200,000円	-	-
授業料	240,000円	240,000円	480,000円
教育充実費	50,000円	50,000円	100,000円
合計	490,000円	290,000円	580,000円

※本研究科博士前期課程修了者は、入学金免除。

（出願時に入学金免除申請用紙を同封すること）

※本学学部卒業者は、入学金半額免除。

（出願時に入学金免除申請用紙を同封すること）

※個人研究費290,000円/年が支給されます。

詳しくは本学迄お問い合わせください。

奨学金

日本学生支援機構奨学金

当奨学金に採用された場合は、最短修業年限まで毎月貸与され、修了または退学後に返還する必要があります。学業成績や本人の収入（配偶者がいる場合は、本人と配偶者の収入合計）等により選考されます。

博士課程前期	【第一種（無利子）】5万円/8.8万円から選択
	【第二種（有利子）】5万円/8万円/10万円/13万円/15万円から選択
博士課程後期	【第一種（無利子）】8万円/12.2万円から選択
	【第二種（有利子）】5万円/8万円/10万円/13万円/15万円から選択

長期履修制度

職業を有している等の事情により、標準修業年限（博士前期課程2年、博士後期課程3年）での教育課程の履修が困難な学生を対象として、標準修業年限を超えて計画的に履修し、教育課程を修了することにより、学位を取得することができる制度です。

□出願の認定

長期履修を出願することができる者は、入学試験に合格した者のうち次のいずれかに該当する者とします。

- ①病院、官公庁、企業等に正職員として在職（自営業含む）している者（パートタイム勤務不可）
- ②育児、介護等により、標準修業年限で修了することが困難な者
- ③その他やむを得ない事情を有し、標準修業年限で修了することが困難な者

□修業年限

博士前期課程 3年 博士後期課程 4年

□申請時期・申請書類

入学時より希望する方は入学願書と併せて、長期履修申請書を提出してください。なお、在学中の所定の時期においても長期履修申請書を提出することができます。

□許可

長期履修許可は、合否通知と併せて行います。

□学費

長期履修許可者の学費は、標準修業年限（博士前期課程2年・博士後期課程3年）分の額のみとなります。

入学試験

詳しくは看護学研究科 HP

https://www.ompu.ac.jp/education/g_nursing/index.html をご覧ください。

9月に実施

入学試験は、外国語（英語）試験、専門科目試験、面接試験を実施します。

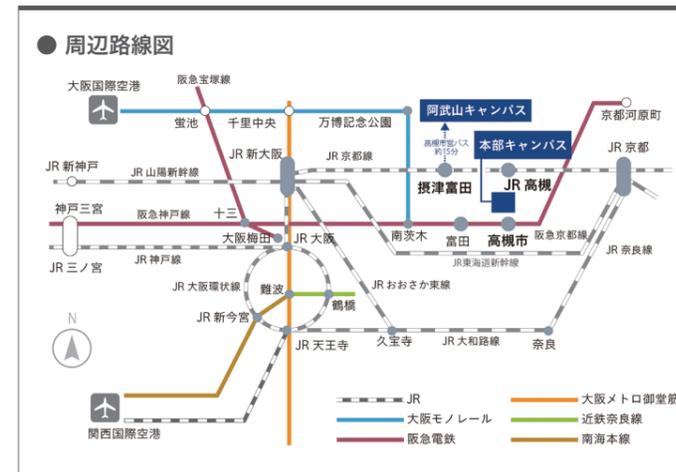
大学院入試説明会・相談会

6月・3月に実施

プログラム等の詳細は看護学研究科ホームページをご覧ください。

※なお、教員との個別相談、過去問題の閲覧は随時受け付けています。

ご希望の方は看護学事務課までお問い合わせください。



大学院入試に関するお問い合わせは
学務部 看護学事務課まで

569-0095 大阪府高槻市八丁西町7番6号

Tel 072-683-1221 (代表)

E-mail kango-gs@ompu.ac.jp

□事務取扱時間

平日 8:30~16:50

土曜日 8:30~12:40 (第1・3・5土曜日)

※第2・4土曜日、祝祭日、年末年始(12月29日~1月3日)、創立記念日(6月1日)は閉室

